

果樹園芸学ユニット

モモ、ブドウ、カンキツといった**果樹の特性**を
解明し、**果実の品質**および**生産性の向上**
につながる研究を行っています。

博士課程 1名
4回生 6名
3回生 4名



森永 邦久 教授
平野 健 准教授
福田 文夫 准教授

高温、高炭酸ガス条件下における果樹 生理反応

地球温暖化による、農産物への影響を考え、モモやナシの高温、高炭酸ガス(CO₂)濃度の状況での、生理機能の違いや光合成能力や蒸散能力の違いを調査しています。



ハウス内のCO₂濃度を上昇させ、同時に外の温度より2度ぐらい高めの状況をつくっています。



冬桃の特性

通常の品種とは違い、11月頃に収穫される冬桃の肥大様相やエチレン生成量、果実品質について研究しています。



音響装置を用いて桃の核割れを調べ、またガスクロを用いて桃のエチレン生成量を調べます。

カンキツのジョイント栽培

ジョイント栽培は、樹体どうしを接ぎ木し、樹高を低く抑えるとともに着果位置がそろい、労力の軽減にもつながります。また、樹体間の養水分の移動により、樹体間差異の軽減にもつながります。そこで、温州ミカンにおけるその特性について研究しています。



両端の樹にはかん水せず乾燥状態にし、水分ストレスがジョイント栽培にどのような影響を及ぼすか実験しています。

モモの赤肉症

モモの果肉障害の一種である赤肉症は品質の低下につながりますが、現在その明確な対策はありません。本研究ではサリチル酸との関連性から防ぐことができないかを調査しています。

赤肉症



正常 指数1 指数2 指数3

モモの果肉障害の程度。程度2~3になると商品価値が著しく低下します。